

**受験直前の学習について**

来月17日（土）・18日（日）に実施される「令和8年度大学入学共通テスト」まで、残り3週間ほどになってきました。明日から始まる冬季課外や冬季休業中にも校内パック模試（12月25・26日、1月5・6日）が実施されますが、受験に向けて再度、確認してほしいことを次のようにまとめてみました。今まで受験に向けて取り組んできたことをもとに、改めて確認してみましょう。

【大学入学共通テストに向けての確認事項】**（1）マーク模試の間違えた問題を再度解き直し、克服できているか。**

※模試直後にしっかりと復習したとは思いますが、もう一度、きちんと克服できているかを確認してみてください。解き直してみて、間違った場合は、重点的に復習する必要があります。

（2）模試で出題されている分野などをよく復習してみる。

※模試は、昨年度までの大学入学共通テストを分析して作成されています。そのため作成された問題には、学力向上に役立つ情報が詰まっており、実際の入試問題に出題されたこともあります。ぜひ、模試で出題された分野を再度確認してみましょう。

（3）今まで受験した模試の成績表を見直し、自己採点との正誤状況を確認してみよう。

※受験校への出願は、自己採点をもとに進めています。今まで受けた模試等で、自己採点の結果と成績表の結果が大きく食い違っている場合は、その原因をきちんと把握しておく必要があります。

冬季休業中のスタディサプリ活用について**（1）自分のペースで弱点の克服に努めよう。**

教室での授業とは異なり、スタディサプリでの学習は、個人のペースで進められるメリットがあります。得意分野は、倍速で効率よく進め、苦手な分野は、わからないところは巻き戻しながら何度も、繰り返し視聴することができます。特に3年生は、模試や演習で間違えた問題に関する講義動画をピンポイントで活用し、解法のパターンを整理することで、得点率を向上させていく良いきっかけになると思います。また、受験勉強で最も危険なのが「分かったつもり」の状態です。復習する際に、理解が曖昧だと感じた時は、根本理解に戻る勇気を持って、

下の学年の講座から見直すことも厭わない姿勢が求められます。大学入試で成功を収めるための盤石な学力の土台を築くためにも計画的な活用を勧めます。

（2）「学習が楽しい」体験を味わおう。

この冬季休業期間に、授業で学んだ内容を徹底的に復習し、さらに理解を深めていくためにスタディサプリを活用してみてはどうでしょうか。スタディサプリの各講義を視聴し、授業で学んだ内容を復習していくことで、入試問題などの応用問題への高い対応力を身に付けることができると思います。そして、「問題を解く楽しさ」を感じ始めると「学習が楽しい」と意欲が高まり、「学習を極めたい」という気持ちにまでなっていきます。受験学習は長期戦です。この高いモチベーションを維持して学習に取り組み、進路目標を実現させる学力を身に付けていきましょう。

「探究」や多様な学びの評価

「進路指導室だより 11月号」でも取りあげた「令和9年度鹿児島大学入試の主な変更点」の「②多面的な評価へのシフト」について、ここでは詳しく述べていきたいと思います。

高等学校教育が「知識の量」から「知識の活用能力」や「探究する力」の育成へと舵を切る中で、大学入試もまた、その「探究」のプロセスや成果を適切に評価するための大きな変革期を迎えていました。新しい大学入試が目指す具体的な評価の姿としては、CBT（コンピュータを活用したテスト方式）などで測れる「知っている・できる」という学力だけでなく、探究活動などを通じて育成される「わかる」「使える」といった能力の評価も重要視する傾向がより強まっています。特に、鹿児島大学をはじめとする国立大学では、学校推薦型選抜入試や総合選抜型入試と一般選抜入試の比率を目標値として3:7にする流れで変革してきました。つまり、大学側も受験生の「探究する力」を積極的に評価しようとしています。

現在、鹿児島中央高校では、SSH（スーパーサイエンスハイスクール）事業のもと、学校設定科目「探究」の時間において、課題研究等の探究活動に積極的に取り組んでいます。生徒の皆さんには、この探究活動のプロセスや成果が、自らが希望する進路目標の実現に繋がっていくということを意識して、これからも「探究」学習に取り組んでいきましょう。

合格体験記6

知之者不如好之者，好之者不如樂之者

九州大学 文学部 人文学科 (58期卒業生)

(担任のコメント) 陸上部・長距離の副主将として、文武両道を実践した。とにかく、素直かつ真摯であり、他者への配慮・尊敬を忘れず、心の内に強き意志を持ちつつ、それでいて、さりげなく合格への王道をひた走った。

受験勉強を振り返り大切だと思ったことが5つあります。1つ目は運動です。私は走ることが大好きで息抜きによくランニングをしていました。休日に学校で自習した後、家まで走って帰ることもありました。走ると頭がスッキリして集中力が格段に上がります。部活を引退しても「文」がメインの文武両道を続けることが合格には必要です。2つ目は睡眠です。脳は寝ている間に成長します。一時期、睡眠を減らして勉強量を増やそうとしたことがありました。日中に眠くなり逆効果でした。特にテスト前は早めに寝るように心がけていました。3つ目は運です。受験は最終的には運です。やった問題が出るか、適当にマークしたのが合っているかで結果は大きく変わります。運をつかむためには日頃の行動が大切です。掃除や相手への感謝など運をつかむ行動を重ねれば本番できっと救われます。4つ目は部活を活かすことです。例えば、学習計画を立てるときに部活の練習メニュー表が役に立ちました。陸上部の練習メニュー表は1週間ごとに「鍛錬期」「調整期」のように期分けがされていました。私はこれを利用し、1週間ごとに「数学強化週間」「模試の準備期」などを決めて計画を立てていました。また入試当日は部活の試合よりも緊張しませんでした。文武両道の意味はここにあると思います。部活と勉強はつながる部分が多いです。5つ目は勉強を楽しむことです。私はずっと受験勉強はものすごくきついものだと思っていました。しかし、実際は「分かる」「解ける」の連続です。このことを楽しいと感じるようになってから時間を気にせず勉強に取り組めるようになりました。「好き」「楽しい」という気持ちは何にも及びません。

先生方、家族、兄弟、仲間の支えがあったからこそ合格できました。本当にありがとうございました。

<受験した教科の学習方法・工夫・反省>

- ・国、数、英、日本史は2次試験でも使う科目だったので添削指導をしていただいた。添削は1対1で先生から解説を受けることで自分の抜けに気づき、疑問点をなくしていくので、かなり力になった。
- ・どの教科も学校の教材にしっかりと取り組むことを心がけ、自分ではほとんど教材を買わなかった。
- ・単語等の暗記系は移動中と寝る前に取り組んだ。答えが2秒以内に出てくるように何周も通った。
- ・反省は1日のノルマが多すぎたこと。その日のうちに終えられないことが何度もあった。

<後輩の皆さんへ>

「少しきを 足れりとも知れ 満ちぬれば 月もほどなき 十六夜のそら」これは日新公いろは歌の最後の句です。足りないくらいがちょうど良いという意味です。しかし決して手を抜けという意味ではありません。テストや勉強ではもちろん満点、完璧を目指します。でも完璧主義になりすぎると逆効果です。完璧にすべきところは完璧に。弱点を見極め、やると決めたことに集中してください。応援しています！！